

# はんだ山の風



“目指せ9090プロジェクト”改め  
“目指せ9095プロジェクト”始動!!

## Contents

- P2 知行合一 病院長 松山 幸弘
- P3 シリーズ最新医療 Vol.39「整形外科領域における再生医療 - 多血小板血漿 (PRP) の可能性 -」  
整形外科 特任講師 花田 充
- P4 病気ここが知りたい「各署との連携による安全性の高い無痛分娩と母児救命システムによる安全性の高い分娩について」  
周産母子センター センター長 産婦人科学講座 教授 伊東 宏晃
- P5 病気ここが知りたい「チーム医療の充実を目指して」 心臓血管外科 病院准教授 鷲山 直己
- P6 栄養部「低菌食とがん病態栄養専門管理栄養士」  
栄養部 がん病態栄養専門管理栄養士 位田 文香
- P7 看護部「多施設新人看護職員研修の開催 ～施設を越えて交流し、共に学びあう～」  
看護師長(教育担当) 高井 香奈
- P8 退職のごあいさつ「浜松医科大学での8年間」 泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明
- P9 はんだ山トピックス  
11/6(月) ヘルスケアアート ～鍵盤ハーモニカ演奏会～  
11/18(土) 令和5年度地震防災訓練・消防訓練  
11/27(月) クリスマスイルミネーション点灯式
- P10 看護師の学びを支える 看護キャリア開発センター センター長 岩品 希和子
- P10 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第34・35・36回) 医療福祉支援センター地域連携室



当院は日本医療機能  
評価機構認定病院です。  
(一般病院3)

日本医療機能評価機構

病院紹介動画は  
こちらから



## 知行合一

中国の明の思想家・陽明によって唱えられた『知<sup>ち</sup>行<sup>こう</sup>合一<sup>いつ</sup>』という考えがあります。これは『知っている、わかっていて行わないのはそのことを知らないのと同じであること』を意味します。この考え方は、陽明学の中でも最も有名な思想として知られ、吉田松陰は、松下村塾で『知行合一』の精神によって知識を着実に実践できる人を育てたとされています。知識だけあっても実践に移せないでいることほど、もどかしいことはありません。また、これほど残念なことはありません。

さて、本院においては、令和4年(2022年)1月から放射線治療、低侵襲手術、がん化学療法、内視鏡検査、周産母子関係の機能拡張を可能とした先端医療センターの稼働、全病棟の臓器別センター化、8床のHCUや新しいハイブリット手術室、また病床稼働を見える化した病床管理システムを導入し、令和5年(2023年度)から“目指せ9090達成プロジェクト”をスローガンにスタートダッシュしてきました。その結果4つの新しい手術室、ICU、HCUの稼働は90%近くまで、手術件数は9,000件を超えるまでになりました。またNICUの稼働や病床稼働も87%まで伸ばしてきました。病床稼働9割、手術件数はさらに増やして9,500件を目指して我々スタッフ全員があともう少し、継続的に頑張るのみです。方向性は見えています。そうです、新たに“目指せ9095達成プロジェクト”です。

考えてみてください。「あー、あの時やっとけばよかった」では遅いのです。年を重ねて自分の人生

### 病院長 松山 幸弘



を振り返ってみた時「色々失敗したけど自分がやりたいと思ったことは相当できたし、人生に悔いはない」そう思いたいですね。

『つまらない生き方をするには人生はとても短い』これはベンジャミン・ディズレーリの言葉です。失敗を恐れて無難な生き方をする、あっという間に人生は終わってしまいます。人は幸せになるために生まれてきたのです。自分が幸せになるためには、他の人を幸せにすること、人のため、世の中のためになることをすること。そうすれば自分が充実し、人に感謝されたり、認められたりする。成功したい、しかし失敗は嫌だというのはない物ねだりです。成功したいのであれば積極的に行動すべきです。

実践に移すためには奮い立つ勇氣と力、そして周りの人から得られる共感が必要です。「知っているけど、やっておけばよかったなー」とならないように夢に向かって走っていきましょう。

#### 四字熟語：知行合一

『知っている、わかっていて行わないのはそのことを知らないのと同じであること』を意味します。この考え方は、陽明学の中でも最も有名な思想として知られ、吉田松陰は、松下村塾で『知行合一』の精神によって知識を着実に実践できる人を育てたとされています。知識だけあっても実践に移せないでいることほど、もどかしいことはありません。



再生医療は、患者さんの体内の「自然治癒力」を活用したり、外部からの様々な材料(脂肪、骨髄、関節内の滑膜、臍帯、羊膜などを由来とする幹細胞、生体材料)を利用したりすることで、組織や臓器の再生を目指す治療アプローチです。整形外科領域においては、外傷やスポーツ傷害、変性疾患によって損傷を受けた組織を再生・修復を促進する治療法として近年注目され、特に“保存療法”と“手術治療”の中間に位置する新しい選択肢として応用されてきています。

整形外科では、これまで膝関節軟骨の欠損に対する培養軟骨移植手術を行ってきましたが、多血小板血漿(platelet-rich plasma: PRP)を用いた再生治療を開始しました。PRPは血小板の濃縮液を活性化したものを指しています。血液1mm<sup>3</sup>当りに10万~40万個含まれる血小板は、血管が損傷したとき損傷した場所に集まって止血を促しますが、その際に多量の成長因子を放出します。この成長因子には、細胞組織修復のプロセスを開始する働きがあり、PRP注入療法では、このPRPに含まれる成長因子の力を利用して、人が本来持っている治癒能力や組織修復能力、再生能力を最大限に引き出す治療です。また、抗炎症効果により症状を緩和することも近年の研究により明らかになっています。

対象となる疾患は主に関節内疾患(第二種)と関節外疾患(第三種)の2分野に分類されます。関節内疾患としては、肩関節・肘関節・手関節・股関節・

膝関節・足関節における変性関節症および関節腔の傷害(骨軟骨損傷、離断性骨軟骨炎、骨壊死、半月板損傷等)があげられます。特に変性関節症においては、重度に進行してしまった状態より、PRPは軽度の関節症性変化における効果が高いとされており、早期診断、早期治療が有用となります。関節外疾患としては、靭帯・腱付着部炎(上腕骨外側上顆炎、膝蓋腱炎、アキレス腱炎等)、および筋・腱損傷(肉離れ、靭帯損傷、捻挫等)が対象となります。難治性となった靭帯・腱付着部炎やスポーツ傷害に対する治療法として用いるほか、肉離れや靭帯損傷においては、少しでも早期のスポーツ復帰が期待されます。また、PRPは患者さん自身の血液から精製するため、副作用の心配が少ない治療法という利点もあります。

ただし、PRP治療は魔法の治療ではありませんので、全ての外傷や疾患が治癒できるものではありません。患者さんの状態によっては複数回の注射が必要となる場合や、有効性が得られない場合もあります。PRP治療を希望される患者さんには事前の詳細な診察と検査を受けていただき、治療の有効性を十分に説明して同意が得られた上での適用となります。

また、PRPを用いた再生治療は保険適用外のため注射費用含め全て自費(自由診療)となります。詳細はかかりつけ医を通して整形外科外来へお問い合わせください。



## 各署との連携による安全性の高い無痛分娩と 母児救命システムによる安全性の高い分娩について

周産母子センター センター長  
産婦人科学講座 教授 伊東 宏晃



### 麻酔科と産科婦人科など各署の 連携による安心、安全な無痛分娩

希望する妊婦さんに硬膜外無痛分娩を行っています(写真1)。硬膜外麻酔管理は麻酔科医が行い、分娩を管理する産婦人科医と緊密な連携のもとで、分娩誘発による計画分娩として無痛分娩を行います。4階東病棟の周産母子センターの母子産科病棟において無痛分娩を取り扱っていますが、全ての陣痛室や分娩室において生体モニターで測定された血圧や心電図などの麻酔管理に必要な様々な生体情報は、1階の中央手術室のセントラルモニターとデータリンクされており、複数の医師による安全管理の体制を取っております。このように、本院は患者さんに安心、安全な無痛分娩を提供しています。



写真1：無痛分娩目的で麻酔科医師により硬膜外麻酔を施行しています

### 母児救命システムによる 安心、安全な分娩とは

本院の周産母子センター(愛称「はまかご」)の新生児部門が先端医療センター4階へ移転しNICU9床、GCU12床に増床されました。母子産科病棟は旧新生児部門を含めて4階東病棟全体へと拡張されました。4階東病棟の分娩エリアと先端医療センタ

ー4階の新生児部門は中空で連結されており、緊急時には新生児科医師が直ちに分娩室へ駆けつけます。

また、母親あるいは胎児の救命のために緊急時には超迅速に帝王切開を行ういわゆる「グレードA帝王切開」のために、写真2のように麻酔科、産婦人科、新生児科、手術部合同のシミュレーションを定期的に行っております。それぞれの医師全てが休日・深夜であっても院内に常駐しているのは、現時点では、静岡県内で本院のみであります。「グレードA帝王切開」の場合、4階の母子産科病棟から1階の中央手術室へは直通の専用エレベータにより迅速に妊婦を手術室へ移送できます。稀ではありますが、妊婦や褥婦に大量出血をきたす場合もあります。そのような場合、輸血部により輸血用の血液を迅速に確保し、放射線科や外科により血管塞栓術による止血を迅速に施行することが可能です。このように、多くの診療科が一致協力することで母児に安全性の高い分娩を本院は提供しています。



写真2：母親あるいは胎児の救命のために超迅速に帝王切開を行う「グレードA帝王切開」に備えて、麻酔科、産婦人科、新生児科、手術部合同のシミュレーションを定期的に行っています



## チーム医療の充実を目指して

心臓血管外科 病院准教授 鷲山 直己



本院の心臓血管外科を紹介させていただきます。地域医療に貢献できるように近隣の病院との連携に重きを置き、心臓手術全般および大動脈疾患の治療を中心に日々の診療にあたっています。先代 数井暉久教授は胸部大動脈外科がご専門で、なかでも弓部大動脈瘤手術時における選択的脳灌流法を世界に広めた先生であり、また、現在の椎谷紀彦教授は胸腹部大動脈瘤手術における脊髄保護研究においてご高名な先生であることから、大動脈手術に関しては遠方からも患者さんのご紹介をいただいています。近年チーム医療の重要さが叫ばれていますが、まさに心臓大動脈手術は外科医師だけで完結できるものではなく、看護師、薬剤師、医療技術者(人工心肺や医療機器の専門家)、リハビリテーション科、ICU医師、他科医師たちとの協力体制の充実が治療成績向上のためには最重要であり、大学病院には充実した多数のスタッフがいてくれることを誇りに感じながら働いています。

低侵襲治療である経カテーテル大動脈弁留置(TAVI)、大動脈ステントグラフト治療、小開胸下心臓手術の流れは大きな潮流となり、今後さらなる発展が期待されています。透析症例へのTAVI治療(腎臓内科、循環器内科の先生との協力)、分枝型ステントグラフト導入(血管外科の先生との協力)、ロボット心臓手術導入(津田和政助教頑張ってます)が近々、本格始動されることと思います。低侵襲治療は回復が早く患者さんに大きなメリットをもたらしてくれる治療ではありますが、制約もあります。また、施行困難な場合や低侵襲治療後の難渋症例のご紹介もいただいています。高侵襲治療を選択

せざるを得ない場合であっても、大学病院としてチームの強みを発揮し全力で対応していきたいと考えています。

外科は過酷な職業とのことで若い医師から敬遠されてきましたが、組織としての継続性を維持し追及していくことも重要な課題であり、若い心臓血管外科医師がはつらつとキャリアアップしていける土壌作りも心掛けています。心臓血管外科研修は険しい道のりではありますが、皆で刺激し合い、サポートし合い、キャリアを積み重ね、日々の患者さん、チームメンバーとのやり取りのなかに、医療に関われる喜びの本質が存在していることを実感できるような組織でありたいと思います。また研究活動は多くの人を助けることに繋がりますので、大学病院の使命でもあり同時に推し進めています。

当科には女性心臓血管外科専門医師が複数誕生していることも誇りです。子育てしながらの勤務は大変ですが、保育所を充実していただいたことに感謝し、様々な立場の医師が共通の目標である良い医療の提供を目指して協力し合い働いています。我々、心臓血管外科は、椎谷教授が提唱している“ワンピースのようなチームで社会の貢献王になること”を目指している診療科です。

目まぐるしい勢いで医療機器開発がなされ、治療法が変化している昨今ですが、その傾向は今後益々強くなっていくであろうと思われます。患者さんの病状を見極め、多くの医療機器を使い分け、最適な治療法を選択し最大限の恩恵を受けていただけるように、さらなる精進をまいります。



## 低菌食とがん病態栄養専門管理栄養士

栄養部 がん病態栄養専門管理栄養士 位田 文香



がん病態栄養専門管理栄養士は、がんの栄養療法に関する高度かつ専門的知識・技術を有するとともに、研究や臨床で求められる高い倫理性、情報収集能力、洞察力を合わせ持つ管理栄養士と定義されています。また、医療チームの一員として、スムーズにがん治療が行えるように、栄養に関わる問題の解決策について多職種と話し合い、患者さんやご家族へ栄養食事指導を実施します。本院では、3名のがん病態栄養専門管理栄養士が在籍しており、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、造血細胞移植チームにそれぞれ所属し、資格を活かした業務が担えるような病棟配置にしています。また、令和2年度(2020年度)の診療報酬改定にともない、外来栄養食事指導料の要件が見直され、本院でも外来化学療法センターでの栄養食事指導を開始しました。医師、看護師、薬剤師と連携し、患者さんの状態を踏まえた指導を行っています。

造血細胞移植チームに所属するがん病態栄養専門管理栄養士の取り組みとして、本院の「低菌食」についてご紹介します。造血細胞移植を受けられる患者さんや化学療法後などで骨髄のはたらきが低下している患者さんを対象とした「低菌食」という食種があります。「低菌食」は、造血細胞移植ガイ

ドラインに準じた食事で、衛生管理を適切に行い、できる限り常菜食と同じようなメニューが提供できるように献立を作成しています。今から10年ほど前までは、すべて加熱調理した料理を提供していましたが、患者さんから「生野菜サラダを食べたい」という要望があったことをきっかけに、メニューの検討を行い、調理師と調理作業工程を相談しながら、生野菜、和え物、カニ寿司、ちらし寿司、夏の冷やし麺、カットフルーツの提供が可能になりました。掲載写真は、カニ寿司とちらし寿司です。患者さんには、さっぱりとした味のすし飯が好まれる傾向にあります。カニ寿司は、イクラの代わりに絹さやを使用し、当日、すし飯、カニ、甘酢生姜を一緒に再加熱し、蒸し寿司のようにしています。ちらし寿司は、刺身の代わりに煮穴子を使用し、エビを増量して、いなり寿司も提供しています。食材は前日加熱、すし飯は当日再加熱しています。

今後も、専門性を活かした活動ができる「がん病態栄養専門管理栄養士」として、がん患者さんの栄養管理・栄養食事指導を実施していきます。



カニ寿司(常菜食)



ちらし寿司(常菜食)



カニ寿司(低菌食)



ちらし寿司(低菌食)

## 多施設新人看護職員研修の開催 ～施設を越えて交流し、共に学びあう～

看護師長(教育担当) 高井 香奈



本院では、医療従事者の育成にも力を入れています。看護部でも、他施設・他病院等に所属する新人看護職員を対象にした研修を毎年実施しています。令和5年度(2023年度)は、静岡県西部地区の16施設から57名の方にご参加いただきました。本研修は講義編・演習編の2部構成で、講師は本院の専門看護師・認定看護師・特定看護師です。

講義編は、オンデマンド配信となっているので、受講生は自分の好きな時間に学習でき、気になる部分は繰り返し視聴することが可能です。「認知症高齢者の看護」「フィジカルアセスメント：呼吸」「摂食嚥下ケア」「褥瘡予防」「感染対策」の5項目の動画を配信しました。



演習編は、集合研修です。4年ぶりに対面での開催となり、演習やグループワークを多数取り入れたプログラムを展開することができました。研修内容は、「フィジカルアセスメント：呼吸」「褥瘡予防」「摂食嚥下ケア」「BLS(一時救命処置)」「メンタルヘルス」の5項目です。

受講生の中には、部署内や施設内に同期がいない方もいます。最初は緊張している受講生もいましたが、研修が進むにつれて楽しそうに演習やグループワークをする様子も見られました。受講生

からは、「他施設の人との交流が楽しかった」、「情報共有ができた」、「他の人も自分と同じような悩みを抱えていることがわかった」といった感想が聞かれ、施設を越えて同じような立場の人たちが交流し、一緒に学びあう機会となっています。多施設の新人看護職員同士で交流し、様々な人の話を聞くことは、明日からの仕事のモチベーションに繋がることと思います。



今年度も多くの方にご参加いただき、充実した研修となりました。この研修が受講生の方々にとって今後の看護実践に役立つものになることを願っています。



## 浜松医科大学での8年間

泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明



この度、平成27年(2015年)11月から約8年間お世話になった本学を退職し、私の母校である神戸大学に異動することになりました。浜松でのこの8年間は、ただひたすら駆け抜けたというのが実感で、周囲の皆様にはいろいろとご迷惑をかけながらではございましたが、泌尿器科学講座の充実のため、無我夢中で仕事をさせていただくことができました。この間、手術件数は飛躍的に増加し、なかでもロボット支援手術は1,000例を優に超す実績を残すことができましたし、がんに対する薬物療法の領域におきましても、常に国内のコンセンサス形成に中心的役割を果たすことができたのではないかと考えております。このような非常に充実した時間を過ごすことができましたのも、今野学長はじめとする多くの職員の皆様からご指導、ご支援をいただいたからこそその結果であり、心より感謝申し上げます。

そのような中、諸般の事情が重なり、本学を退職し神戸大学に異動することになりました。最終的にこの決断したのは自分自身であり、いかなる理由であるにしても任期途中で離任することで、皆様には多大なご迷惑をお掛けすることとなり、非常に心苦しく、ただただ申し訳なく思っております。神戸大学泌尿器科は、国内でも有数の規模と実績を有しており、日本泌尿器科学会の発展に大いに貢献してきた歴史がございます。私自身、様々な意味でこれまで以上に大きな責任を背負うこととなりますが、浜松医大での経験を活かして、神戸大学でも自身が先頭に立って仕事をし、泌尿器科学の進歩に繋

がるような大きな成果を挙げるこそが、お世話になった本学の皆様に対するご恩返しになるものと心得て、新たな気持ちで職務に精励してまいりたいと考えております。

本学泌尿器科学講座には私が在籍させていただいた8年間に32名の新規入局者を迎えることができ、一旦常勤職員の派遣を中止した幾つかの地域基幹病院においても派遣の再開に至るなど、陣容も徐々に整いつつある状況です。しかし、まだまだ弱小で、若手を中心としたメンバーで構成されている発展途上の医局でございます。また、今般の私の退職という事態を受けて、当然のことながら医局員には多少の動揺があることも否めない印象もございます。私自身も当面の間、手術支援に来学させていただき、その他の面でもできる限りのサポートをしてまいりたいと考えております。皆様におかれましても、本学泌尿器科学講座に対しまして、引き続きのご指導、ご鞭撻をいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

この8年間は、私の人生の中でも忘れがたい特別な時間となりました。浜松医大の皆様には、感謝の言葉しかございません。最後になりますが、本学に在籍させていただいたことを誇りに、今後も泌尿器科学の発展のために全力を傾注するとともに、神戸の地から本学の益々の発展を心より祈念しております。8年間お世話になり、本当にありがとうございました。

(※令和5年11月退官時の職名で掲載させていただいております)



hinotoriを使用した遠隔地教育システム確立に向けた取り組み



3年ぶりに開催した医局親睦会

11/6 (月)

## ヘルスケアアート～鍵盤ハーモニカ演奏会～

秋の過ごしやすい気候の中、外来棟中庭にて鍵盤ハーモニカ演奏集団「おばけんず」によるコンサートが開催されました。このコンサートはヘルスケアアートの一環で、病院という緊張感のある環境の中にアートを取り入れ、患者さんやスタッフの精神的ケアを行う活動になります。主にポップスや演歌などの演奏が20分程度で3回行われました。目を閉じる方、笑顔で聞く方、歩きつつ中庭をのぞくスタッフなど、音楽への触れ方は様々でした。中庭から響く心地よい音色に、患者さんと演奏者、医療従事者など、その場にいる人が同じ時を共有し、穏やかな空気が病院に流れました。



11/18 (土)

## 令和5年度地震防災訓練・消防訓練

本院では地震を想定した実動訓練を毎年行っています。大災害時には、多数の傷病者が来院することにより、需要と供給のバランスが崩れる可能性があります。そのため、通常の医療体制ではなく、多数の傷病者に対応できる医療体制の構築・維持が重要になります。そのようなテーマのもと、当日は本番さながら、傷病者の重症度分け(トリアージ)訓練や、病院全体の被害状況の把握と診療方針を決定する訓練、さらには状況に応じた診療の訓練などを実施しました。有事を想定した貴重な経験を積むとともに、一人ひとりが防災の意識を高める有意義な一日となりました。



11/27(月)

## クリスマスイルミネーション点灯式

毎年恒例のクリスマスイルミネーション点灯式が4階西病棟にて開催されました。点灯式では廊下を消灯し、入院中の子どもたちとご家族、病院スタッフが一緒になって点灯のカウントダウンを行いました。イルミネーションが点灯した際には、子どもたちから大きな歓声が上がりました。また、他病棟の患者さんがスマートフォンを片手に様子を見守る姿なども見られ、大いに盛り上がった点灯式となりました。このイルミネーションは11月28日から12月26日まで実施され、期間中は院内が鮮やかに彩られました。この光景が入院中の患者さんにとっての癒しになることを病院スタッフは願っています。



## 看護師の学びを支える

看護キャリア開発センター センター長 岩品 希和子



看護キャリア開発センターは、看護師のキャリア形成支援を担う部門です。少子超高齢化の進行、人々の価値観の変化により健康上のニーズは増大し、多様化・複雑化しています。このような状況に応じてそれぞれの看護職が役割を発揮するためには、最新の知識や技術を学び直し、能力の向上を図る必要があります。当センターでは看護師の学びを支えるために、特定行為研修と認定看護管理者教育を開講しています。

特定行為には21区分38行為があり、研修を修了した行為については手順書に示された病状の範囲内であれば、看護師が医師の指示を待たずに一定の診療の補助(脱水時の程度の判断と輸液による補正など)が行えるため、医師の負担軽減や、迅速な処置の提供により患者さんの苦痛などを軽減できます。

認定看護管理者教育課程では、地域の病院・施設の看護管理者育成の支援をしています。令和5年(2023年)8月には、第一期生47名の受講生が研修を修了しました。看護管理者には、さまざまな「組織」

において質の高い医療・看護を提供する役割があります。さらに「暮らしと医療を支える」という視点で地域との連携・協働も求められており、そのための能力開発が重要です。

今後も継続して地域・社会へ貢献できる人材育成に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



特定行為研修：直接動脈穿刺による採血の演習風景

## 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内 (医療従事者向け)

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

開催回	開催日時	講師	申込締切
第34回	2月21日(水) 19時30分～ 20時30分	 いたみセンター特集 整形外科学講座 准教授 大和 雄 先生 「腰痛診療update」	2月20日(火)
		 リハビリテーション科 病院教授 山内 克哉 先生 「いたみと運動療法」	
第35回	3月21日(木)* 19時30分～ 20時30分 (*木曜開催)	 先進ロボット手術開発学講座 特任准教授 本山大輔 先生 「浜松医科大学泌尿器科のロボット支援手術」	3月20日(水)
第36回	4月17日(水) 19時30分～ 20時30分	 小児外科 特任教授 澤井 利夫 先生 「浜松医科大学小児外科医療の紹介」(仮題)	4月16日(火)

**事前申し込み方法：** メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ(地域連携Webセミナー)をご確認ください。

**お問い合わせ：** 地域連携Webセミナー担当事務局(地域連携室内)

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849 (平日8：30～18：00)

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp



# 外来診療日一覧

2024.1.1現在

受付時間 午前8時30分～11時 一般外来・専門外来  
午後0時30分～2時 専門外来

○：午前  
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター受付電話 435-2484											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ
※脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
IBDセンター	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
家族性消化器腫瘍外来				◆						◆	
脳神経病態外来	◆					◆					
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
ペースメーカ外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
合併症外来								◆			
精神科神経科 受付電話 435-2635											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来								◆	◆		※2020.4.28～休診
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆					◆				
内分泌		◆					◆				
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆		◆			◆		
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
特殊予防接種										◆	
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
一般外科	○		○		○	○		○		○	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
血管外科		◆			◆		◆			◆	金曜日：下肢静脈瘤
IBDセンター	◆					◆					
リンパ浮腫センター				◆						◆	
専門外来					◆					◆	
肥満減量外来	◆	◆			◆	◆	◆	◆		◆	
緩和ケア外来			◆		◆	◆	◆	◆		◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
骨粗鬆症				◆	◆				◆	◆	
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆					◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	アトピー外来		◆	◆			◆	◆				
	脱毛症外来	◆		◆			◆	◆				
	乾癬外来		◆				◆					
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆			
専門外来	腎移植外来				◆				◆			医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆			◆	◆				
	不妊症外来		◆		◆		◆		◆	◆		火曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆		◆	◆	◆			
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆				◆					
	斜視・弱視外来							◆				
	ロービジョン									◆		
	角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆			◆	◆	◆					
	耳外来				◆					◆		
	耳鳴外来		◆				◆					
	難聴外来・人工内耳外来		◆				◆					
	睡眠時無呼吸・いびき外来	◆				◆	◆				◆	
	顔面神経外来		◆		◆		◆			◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来	◆			◆		◆			◆		
	めまい外来			◆						◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	NIPT外来						◆					
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆					◆		第1、2、4週のみ
	母親学級											予約制
	助産師外来											要問い合わせ
	乳腺予防ケア外来											(午後に産科婦人科へ)
ART室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	放射線診断科 IVR外来		◆				◆					
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	いたみセンター	◆					◆					
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆					◆			
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆			午後のみ
	痙縮外来		◆		◆		◆			◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○		木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	唇顎口蓋裂外来											
	顎補綴											
	矯正歯科											専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院